

契約制度等の改善（プロジェクト管理の強化）

装備品のライフサイクルについて、各プロセス（過程）をシームレスかつ組織横断的に管理できるようプロジェクト管理手法を導入

プロジェクト管理の目的と効果

従来の装備調達の問題点

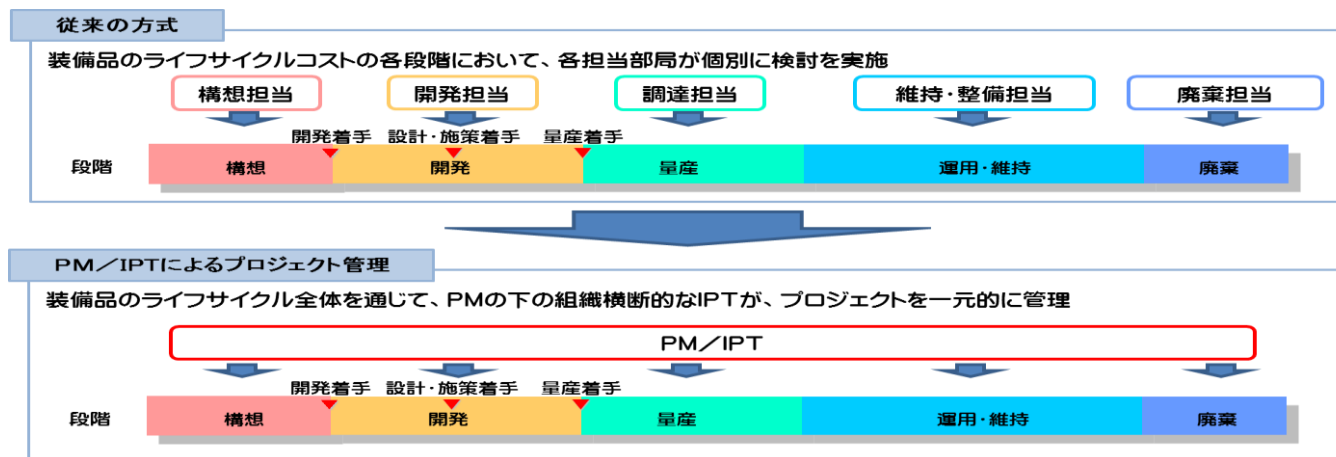
防衛省における従来の装備調達は、構想、開発、量産、維持・整備及び廃棄といったライフサイクルの各段階を、**それぞれの担当部局が個別に所掌**していたため、**コスト上昇に対する一貫性のある迅速な対応が困難**であった。

プロジェクト管理手法の導入

今後は、主要な事業について、装備品の**ライフサイクルを通じて**、コスト、パフォーマンス、スケジュールに関する一元的な管理を実施するため、プロジェクト管理手法を導入する。そのための体制として、**プロジェクト・マネージャー(PM)**及び**組織横断的な検討を行う統合プロジェクトチーム(IPT)**を設置する。

プロジェクト管理の効果

装備品の計画に沿った取得、配備及び部隊における運用をライフサイクルを通じて適切なコストで実施することにより、より効果的・効率的な防衛力整備を進めることができる。

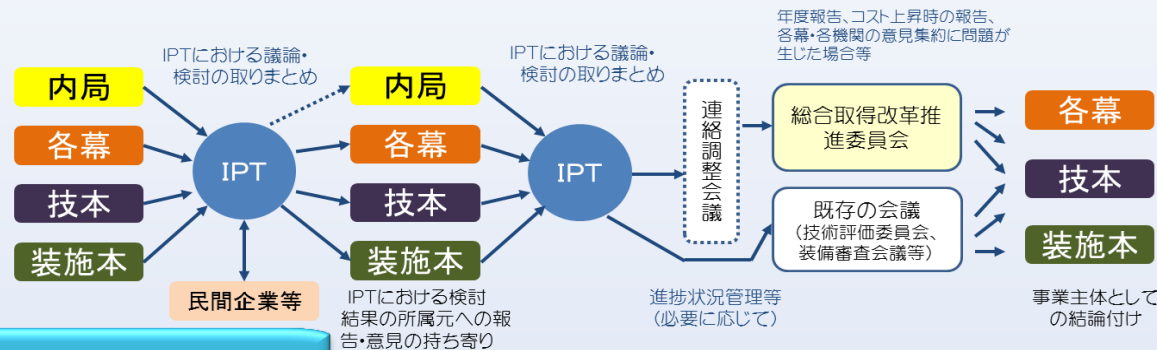


プロジェクト管理のポイント

- PMはプロジェクトの総合調整権限を有し、説明責任を果たしつつ、プロジェクト管理対象装備品等の統合プロジェクトチームによる管理を実施する。また、そのプロジェクトの進捗状況について定期的に報告を実施。
- 一定基準を超える装備品及び必要性からプロジェクト管理対象装備品等を選定
(基準：構想・開発段階のコスト見積りは300億円以上、量産開始前における量産段階コストは2000億円以上、又は同じくLCC※は3000億円以上)
- 統合プロジェクトチームは、ライフサイクルを通じたプロジェクト管理の観点から、以下の事務を実施
 - ① 配備計画と取得に係るスケジュールの整合性、性能とコストのトレードオフ、防衛生産・技術基盤に与える影響等の検討
 - ② 関係省庁及び関係部局等との総合調整
 - ③ 対象装備品等に関する情報提供要請、民間企業等との渉外事務
 - ④ 必要な情報の収集整理
 - ⑤ 予算要求に関する総合調整
 - ⑥ 取得に関する総合調整
 - ⑦ 重要な結節点における次の段階へ移行することの妥当性の検証
- 一定の基準を超えるコスト上昇が認められた場合は、その原因分析、事業継続に関する検討、対処方策の検討を実施

※ LCC：ライフサイクルコスト

【PM・IPTを置いて実施するプロジェクト管理体制における決定のイメージ】（※青字はPMの職務）



プロジェクト管理の当面の方向性

- プロジェクト管理を実施する体制などを定めたPM/IPT包括通達(事務次官通達)を制定し、主要な装備品について全体最適化を図っていく。
- 当面の間は、当該PM/IPT包括通達に基づくプロジェクト管理を試行的に実施していく。
- このプロジェクト管理の試行的取り組みの経験を、防衛装備分野における防衛省の体制強化に向けて設置する防衛装備庁(仮称)におけるプロジェクト管理に反映していく。